

ひばりが丘中学校及び田無第二中学校の通学区域の見直しに関する検討の経緯

校舎等の老朽化によるひばりが丘中学校の移転建替え事業に伴い、ひばりが丘中学校及び田無第二中学校の通学区域の見直しを行いました。

この取組は、合併以来の課題になっている「ひばりが丘中学校と田無第二中学校の近接化」、「ひばりが丘中学校のいびつな通学区域」の課題解消につながるものです。

	平成23年度 (2011)	平成24年度 (2012)	平成25年度 (2013)	平成26年度 (2014)	平成27年度 (2015)	平成28年度 (2016)	平成29年度 (2017)
学校施設適正規模・適正配置庁内検討委員会 平成23(2011)年度における検討	学校施設の適正配置、建替え、通学区域等について検討						
西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会		中原小及びひばり中の建替え案に関する事項を検討					
西東京市立ひばりが丘中学校建替協議会				建替校の将来像や基本プランを検討、課題の整理			
西東京市立ひばりが丘中学校及び西東京市立田無第二中学校通学区域見直し等に関する地域協議会						建替準備検討協議会の報告書を踏まえた通学区域の検討	

■通学区域の検討について

平成 26 年 2 月に、「西東京市立中原小学校及び西東京市立ひばりが丘中学校建替準備検討協議会」でとりまとめた 12 案の通学区域を、次の「基本的な考え方」について再検証を行いました。

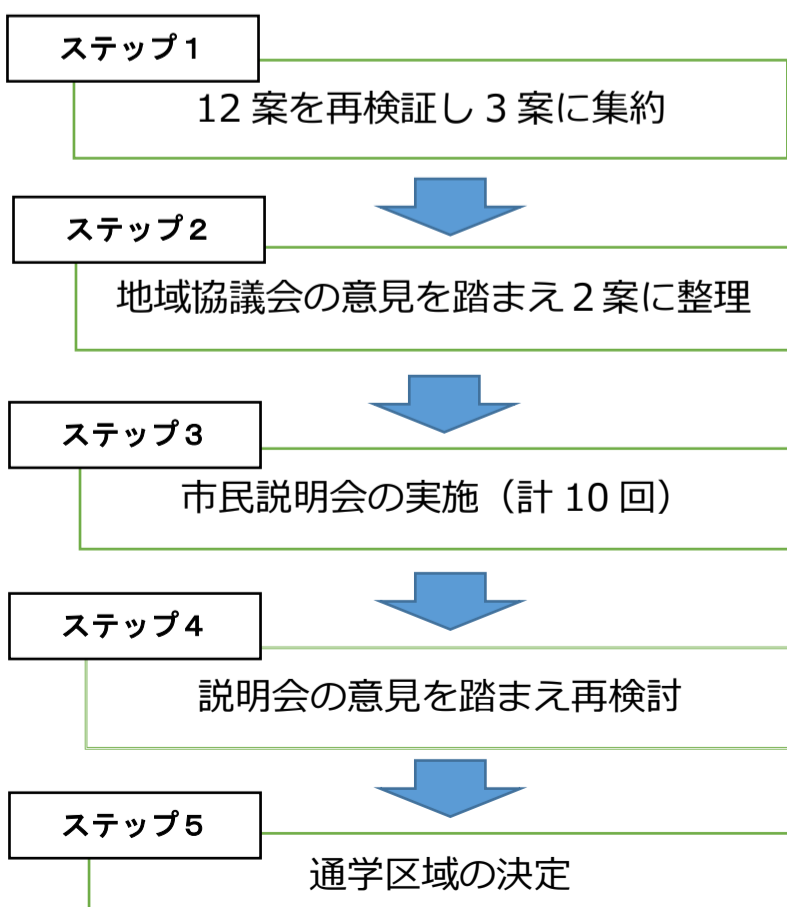
【基本的な考え方】

- 施設の移転による通学距離を踏まえた見直し（いびつな通学区域の解消）
- 両校の一定の学校規模と学校教育・部活動の充実（生徒が切磋琢磨できる環境づくり）
- 教員の確保も含めた学校経営の安定化（計画的な教員配置）

<具体的な検討の視点>

- ・生徒数、学級数と学校施設のバランス（生徒数、学級数はマンション開発等の状況も考慮）
- ・小学校から中学校の進学先
- ・通学距離と通学区域のわかりやすさ

■地域協議会における検討の流れ



■ひばり中移転と中原小暫定使用の流れ

- ① 中原小学校の建替えに伴い、ひばりが丘中学校の新校舎を中原小学校の仮校舎として約2年間使用します。
- ② 平成 33 年夏にひばりが丘中学校は新校舎に移転し開校します。

	29年度	30年度	31年度	32年度	33年度
ひばりが丘中学校		← 新校舎建設 →			移転開校
中原小学校			← 中原小学校暫定校舎使用 →	← 転用改修 →	

平成 31 (2019) 年度から 2 年間かけて、中原小学校を現在地で建替えることとし、新校舎を建設する間、「(仮称) 第 10 中学校」の校舎を一時的に仮校舎として使用
 ＊中原小学校の仮設校舎の建築を省略することで、児童は従前の校庭が確保されるなど、学習環境が確保できるとともに、仮設校舎の経費を削減することができます。

